

福岡県の主な農産物の生産状況

平成 29 年 10 月 16 日現在
(専技情報より抜粋)

◇普通期水稻◇

「元気つくし」は収穫が終了しました。「ヒノヒカリ」は収穫中で、10月17日頃終了の見込みです。10月下旬には「実りつくし」、「ヒヨクモチ」の順で収穫される予定です。「ヒノヒカリ」以降の中晩生品種は、出穂後の日照不足により登熟はやや劣りますが、穂数が平年並み～やや多く、収量は平年並み～やや良、品質は概ね良好の見込みです。トビイロウンカの発生は県南部を中心に多く、一部で坪枯れが発生しています。今後、降雨により収穫が遅れた場合、坪枯れの被害が拡大するおそれがあります。収穫時期は、出穂後の積算気温に加え黄褐色籾比率と籾水分を確認し、刈り遅れないよう留意しましょう。トビイロウンカ対策は適正に行いましょう。縞葉枯病発生地帯では稲株のすき込み、休耕田の耕起や畦畔の雑草管理を行いましょう。

◇大豆◇

子実肥大期で、7月中旬までに播種したほ場では葉の黄化が始まっています。主莖長は平年並み～やや高く、莢数は平年並み～やや多いです。9月の日照不足で粒の充実がやや抑えられ、収量は平年並みの見込みです。ハスモンヨトウは少ないが、カメムシ類の発生はやや多い傾向です。一部でアサガオ類やヒユ類などの雑草多発ほ場が見られます。大型雑草は、汚粒発生防止や収穫作業の支障にならないように、早めに抜き取りを行いましょう。

◇イチゴ◇

生育は、10月上旬の降雨の影響で、平年並～やや早くなっています。早期作型（9月10日前後迄定植）は出蕾期となってきており、出荷は11月中旬から始まる見込みです。炭疽病の発生が、定植後もやや多いです。マルチ被覆時には畝表面が硬くなっているので中耕を行いましょう。摘葉後にハダニ防除を徹底しましょう。炭疽病が多発したほ場は、秋ランナーなどを活用し親株を更新しましょう。

◇キウイフルーツ◇

「レインボーレッド」は9月25日から10月5日に集荷されました。作柄は平年並みでしたが、かいよう病の発生により集荷量は前年より少ないです。「甘うい」は、10月上旬から中旬にかけて集荷されています。出荷量は65tの見込みです。「ヘイワード」は、11月上旬から集荷予定です。結実、果実肥大とも平年並みで、出荷量は平年並みの見込みです。収穫果実は、温度が上がらないように日陰に置きましょう。果実が濡れると、腐敗しやすくなるため、雨天の日には収穫しないようにしましょう。

◇トルコギキョウ◇

夏季出荷作型（6～9月出荷）は、出荷終了しました。生育は順調ででしたが、出荷量は系統共販出荷者の減少に伴い減少しました。秋出荷作型（10～11月出荷）は9月下旬から出荷が開始しました。定植後から8月の高温で生育・開花が進み、平年より7日程度早い出荷となりました。11月出荷分は10月下旬から15℃加温を行い、開花を促進させましょう。日中は換気に努め茎葉の締まった株づくりを行いましょう。斑点病、灰色かび病、夜蛾類の対策を徹底しましょう。

◇畜産◇

9月の豚枝肉価格は、下げ基調の平年に比べて値を維持し632円と過去5年平均をも上回りました。鶏卵価格は、前月より上昇して188円でしたが、過去5年平均は下回りました。寒冷期へ向かっていく中で、鳥インフルエンザや豚のPED発生予防のため、農場の衛生管理を徹底しましょう。